

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

2019年4月 第218号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

長寿が不条理を生まぬ世を願って —全ての命を無条件に受容れる社会でこそ—

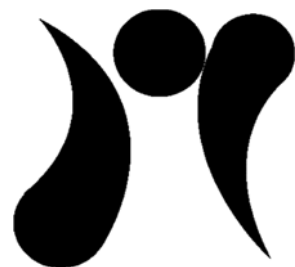
1960年代～70年代に社会が高齢化し始めた欧米先進諸国で、医学の発達に連れて「より健康でより長く」生きる希望が膨らみ、其れは同時に病気や障害と付き合いながら最期を迎える生活につながる事にも気付き、「生命・生活の質=QOL」を問い掛ける姿勢が表面化しました。『長生きの必然』として病気や障害を受容れ、死をも受容して生きる事が日常化し、高齢者の生活を支える医療・介護の理念として『QOLの尊重』が提唱され始めました。

古来、長寿は人類の夢でした。「古稀」と言われた70才を超えて生きる人たちの人口割合が7%を超えたら高齢化社会、14%で高齢社会とされ、日本は今や21%を超えた超高齢社会です。平均寿命が90才近くにもなり、誰もが100年を視野に入れて生きる必要がある長寿社会です。「喜ばしい世」であるはずですが、老いて100年を健康体であり続ける事は不可能であり、健康不安が常に付きまといまいます。其れと同時に、病気や障害との付き合い方、死の受け止め方が、個人的にも社会的にも大きな課題として表面化します。正に『QOL』を問い掛ける暮らしが日常化するのが、老いであり長寿の暮らしです。しかし日本では制度も世間も、老いても健康であり続ける事を追い求め、病気や障害や死を『受容』する意識が拡がりません。老いに抗い死を回避する『健康願望』と『医療への期待』が膨らむ一方で、『現実』に訪れる老いと死に潜むQOLを問う姿勢が育たず、死に触れる議論は『タブー』です。

国家予算が年間100兆円を超え、高齢者の年金と医療・介護を賄う社会保障給付費も年間100兆円を超えて国債の発行が増え続け、今や国全体の負債総額は1100兆円を超えました。更には、高齢者の寿命が延び続けるその片方で、40年以上に亘り少子化が進行し続けて、昨年の出生児数は約92万人です。

新たに生れる数少ない子供達に大きな負債を背負わせる事になり、日本社会の存続も危ぶまれる事態とも思えます。現政府も今の少子化を『国難』と表現しますが、根本的な原因追求も、抜本的な対策も見当たらず、全ての面で先送りしてい

(次ページに続く)



(前ページの続き)

る様にしか思えません。介護保険発足20年目、平成最後の今年こそ、高齢者の暮らしを賄う費用を多額の負債として残すのではなく、子供達には明るい『未来への道筋』を拓き、引継ぎたいと願います。老から若への滑らかな「バトンタッチ」こそが、限りある命を生きる人が構成する社会の『原点』であり、人のみが持つ『思想と社会性』を育む根源的な営みです。

生命にとって死は遺伝子が伝える宿命であり、全ての命が『死に備える本能』を有しています。人間以外の動物は死期を悟ると忽然と「群」を離れますが、人間は死期を悟ると「集団の中」で仲間へ身を委ねて最期を迎えます。大半の人には或る日突然死が訪れるのではなく、老いに連れて徐々に心身の機能が低下する中で、死期を悟る「感性や感覚」が研ぎ澄まされて行き、やがて吾身の全てを仲間へ委ねて最期を迎えます。『自然の摂理』に添って生きる人間にとって『老い』は『死の準備期間』であり、『長寿者』が準備万端整えて迎える『穏やかな死』は人間のみが築く『死後にも続く関係性』の幕開けです。そして『安らかな死顔』はバトンを引継ぐ次世代への最高の贈り物です。

絶えず変化する「無常の世」で「限りある命」が社会と歴史を続ける上では、生への『希望』と同時に命の限りを悟る『諦観』が重要な役割を發揮します。人は『自然の摂理』に添って『生と死の相反する価値』を内在して生きるが故に、希望と諦観の間で揺れ動きながら思想や宗教を育み、人間性や社会性を養い、多様で柔軟な社会関係を結び得ました。『新たな命』を産み、育て、社会を引継ぎ、命の限りを超えて歴史を続けました。『限りある命』は自然の摂理に添って『限りを迎える』中で、『豊かな創造力』を發揮するのです。

平成は『急速な長寿化』と『深刻な少子化』が同居する世です。長寿化に連れて高齢者の暮らしに要した多額の費用を「負債」として残す一方で、「新たな命を産み育てる」という『自然の摂理に添った創造的な営み』が上手く行えない社会を創り出しました。老いても要介護にならない様に、重度化しない様に、でき得る限り死を避ける為に、との「切なる願い」に添った懸命な医療努力の裏側で、「生まれる子供が減り続ける」という皮肉な結果を生みました。医療の急速な進展の裏側で、出生前診断でダウン症と確定した胎児は90数%が中絶されるという事態が進み、親による幼児や児童の虐待が頻繁に起こり、子供同士のいじめと自殺も後を絶たず、「長寿」と、その裏側で進む「少子世代のいびつな現状」には何らかの『深い関連性』を感じます。「吾身の老い」や「我が子の健康」に関して、医療の進歩により可能になった『自然の摂理を超えて描く予防の願い』は一時の時間稼ぎや個人の主観的志向ではあっても、社会的には『重い不条理を孕んだ結末』を生みました。

「老いと死」も「妊娠と出産」も共に『自然の摂理』に添う根源的な営みであり、「老いの道」も「誕生の道」も共に『無防備な身』を予防する道ではなく『無条件に受容れる道』につながります。自然の摂理に添う営みの中で、人が限りある命と命をつないで『持続可能』な社会を築く為には、認知症の人もダウン症の子も共に、尊重すべき『QOL』を秘めた『価値ある存在』です。無防備な要介護者をケアする仕組みは、命と命をつなぐ最も『根源的な社会性』を帯びた営みとして、少子世代に明るい未来を拓くもの、と信じます。

2019年度事業計画書

社会福祉法人はりま福祉会・せいりょう園

基本理念

日本は今「人生100年健康長寿」を願う裏側で『深刻な少子』に直面しています。結婚・妊娠・出産・育児と続く営みは、人間社会の可能性と創造性に満ちた『未来』を開く営みですが、何か不条理が起きているのでしょうか？

人は『限りある命』を繋いで、遺伝子では伝わらない『思想と文化』を伝え、社会を引継ぎ歴史を続けてきました。老いに伴う変化に応じて『しなやかに、したたかに、たくましく』生きて徐々に無防備な身に成って逝くお年寄りから、多様で柔軟で融通無碍に順応する「社会生活能力」を受継いで来たのです。

「老いて無防備な身を仲間に委ねて最期を迎える」営みは、「妊娠・出産・育児」と続く営みの『裏返し』でもあり、共に無防備な身を無条件に受容れて愛情を注ぐ『豊かな人間性』を必須とする、人が社会を構成して生きる上で最も根源的な営みです。老いて要介護や認知症になる老人も、ダウン症で生れる子供達も共に、『多様性と柔軟性と可能性・創造性』を秘めた存在として『無条件』に受容れてケアする営みが、『思想や人間性や社会性』を育む『人間社会構築の原点』だと確信します。

今年度、加古川市内の社会福祉法人連絡協議会が発足します。高齢者介護・幼児保育・障害者福祉・児童養護の各事業の主体となる社会福祉法人が連携し、「法人の公益性」を自覚して『長寿と少子』の間に生じている『不条理』に向き合い、深く掘り下げて取り除き、新たに生れる子供達には可能性と創造性に満ちて『持続可能な社会』を引継ぐ為に力を尽くします。

(1) 2019年度新規事業の計画

① 新長砂町内会の一角に『グループハウス岸本邸』を開設します。

当法人の理事であった岸本氏の家を4部屋のシェアハウスとして、高齢者や障害者が『地域の一員』として最期まで暮らす居住空間とします。共生社会の拠点として第2・第3のシェアハウスも視野に入れます。

② 新築店舗を『障害者就労支援事業所おむすび』に賃貸し、支援します。

当施設居住者お二人からの『遺贈金』を原資として建築した店舗を「おむすび」に賃貸し、当法人の各事業が高齢者や障害者の就労や社会活動の場として活用できる途を探ります。陶芸や造形や手芸・園芸など多様な創作活動の場を設けて、共生社会への道を一步踏み出します。

③ 地域の人や施設ご利用者のご家族・ご友人を、無償・有償のボランティアとして介護現場に迎え入れ、『自然の摂理』に添って迎える『老いと死の過程』に触れて頂き、『死後にも続く関係性』に気付いて欲しいと願います。死は『天空の世界』で生きる『永遠の命』への旅立ちです。

※「2019年度事業計画書」の続きは、ホームページをご参照下さい。

<http://www.seiryoen.or.jp/>

〇さんの看取り

グループホーム 大石 敏子
(介護福祉士)

〇さんは平成30年7月20日の朝に亡くなりました。〇さんがグループホームで過ごされた2年3ヶ月の日々を振り返ります。

〇さんは平成28年5月28日、西宮から来られました。親戚の方が加古川におられ、実のお姉様も同じせいりょう園のケアハウスに入居されておられるので、ご家族はもちろん、ご本人も心強かったと思います。入所された当初、〇さんとの話の中で「お姉様に来て頂いたり、遊びに行かれてはどうですか」と声をかけていましたが、いつも返ってくる言葉は「嫌々、怖い姉の所は行かへん。姉はしっかり者で、子供の頃からよう怒られたからね。苦手やねん」と話されていて私達も苦笑いした思い出があります。

入所当初、夕方になると、時々思い出した様に「何でここにおるのかなあ。帰りたい。家内に迎えに来てもらわれへんやろか。電話するわ」と言われ、どうしてもその時は奥様に電話をかけられ「もう迎えに来てくれよ」と話されていました。その様な日は幾日かありましたが、グループホームの生活に慣れて来られたのか次第に奥様の事は話されなくなりました。当時、病を患っておられた奥様から「グループホームでの生活に早く慣れるのを願っています。とても寂しいです」と話がありました。「こちらから連絡はなるべくしませんので」とも言われていました。私達スタッフも触れない様にしていました。私が夜勤の日の事ですが、グループホームの電話が鳴り〇さんから「お〜い電話やで」と呼ぶ声がありました。急いで行くと〇さん自身が電話で話されていたので、そのまま見守りをしていました。尋ねると「家内からやった」と笑い、とても嬉しそうな顔で話されていました。偶然とは言え〇さんが電話に出て頂き良かったとほっとした気持ちになりました。其れから一年位だったでしょうか。奥様が亡くなられたと連絡がありました。

その頃には、奥様の事も話さなくなると同時に夜になると不穏になられ、「寝られへん、耳鳴りもする。どうしたらええんや」「薬飲んでもあかん」と言われるようになりました。症状の酷い時は「今から医者呼んで」と度々訴えられるようになっていました。呼べない事を伝えて分かって頂こうと話をし、寝て頂くのにどうしたらいいのか困惑し、夜になると対応の難しさから正直しんどいなと思う事もありました。しかし今思うと〇さんは心配性の方だったので、辛かったのだらうと思います。時が過ぎ少し落ち着いてこられ、夜間の訴えも少なくなりました。穏やかに過ごされ毎日3度のご飯がおいしいと完食されていました。週1回のピアノ教室にも自然とお姉様と待ち合わせて参加され、仲良く楽しく過ごされていました。平成30年5月頃までは食事量に変化なく、体調不良の訴えもご本人より聞く事はありませんでした。しかし徐々にお腹が空いていないと言われる事が増え、食事量が減っていきました。5月後半には気分不良の訴えや倦怠感が見られる様になりました。6月に入ると食事を殆ど食べられない日もあり、ベッドで過ごされる日々が始まりました。

6月下旬にご家族とのカンファレンスを行いました。ご家族からは、ご本人が痛い事やしてほしくない事などは無理に介護せず、その思いを受け入れて介護をお願いしますとのことでした。食事を配膳させて頂く度に「何もいらん。ややこしい。これは何か」と拒否されていました。しかしご本人が希望されたお茶・水・アイスクリームは、提供すると少しずつでも毎日食べられました。すると必ずありがたうと言って下さっていました。次第にお体も弱々しくなられ、私が夜勤の日発汗があった為、清拭・更衣していると「わしもう死ぬんやろ」と言われました。突然の言葉にご本人の顔を見る事が出来ず、暫く黙り込んでしまいました。〇さんはどの様な気持ちで私に聞かれ、私の顔を見ていらしたのか今になれば感慨深い事となりました。手を動かしながら〇さんに「人はそんな簡単に死ねないんです」と人生の大先輩に発した言葉でした。段々

と言葉も聞き取りづらく口を湿らすだけの日々になり、それでも頑張っておられる姿を見る度、生命の尊さを実感しOさんの体力の凄さにびっくりさせられました。

Oさんは潔い最期だったと思いました。看取りの最期はそれぞれ違うので、いつも初心だと思っています。今後もその人の「今」を大切にお一人おひとりとの関わりの中で、最期までその人らしく過ごして頂ける様サポートしていけたらと思います。



兵庫県助成事業 ひょうご介護サポーター研修 (介護業務1日体験講座)に参加して

グループホームまどか 松本 薫

2月27日(水)ひょうご介護サポーター研修があり『介護実技』という項目を担当させて頂きました。なぜ経験の浅い私かと思いましたが、私自身が昨年秋に『福辺節子さんの力を引き出す介護術セミナー4回シリーズ』を受講し、そこで学んだことを実践するなかで、サポーター研修で教える側になり、「仕事に責任を持って取り組むチャンスにして下さい」と言われたからです。

せいりょう園に調理職として就職し、介護職への転向には一大決心でしたが、介護職として働き始めてからは、先輩の陰に隠れて前にでることはしてきませんでした。しかし、今回の実技担当はその時以上の覚悟で取り組みました。福辺先生にもセミナーの中で「この介助術は2~3回練習すれば誰にでもできるものではないのです。何回も何回も繰り返しの練習が必要です。」と言っておられた通り、私自身もまだ完璧に習得できていない中で、何をどのように伝えていいのか悩みました。そこで、私が福辺先生のセミナーで学んだことを実践してみて一番大切だと感じたことは何だろうと考えてみました。それは、介助の基本は介護させていただくすべての人に、目を見て伝わる声かけをして、伝わったかどうか確認して、了解を得て介助が必要であると判断したら初めて相手に触れるということでした。このことを基本とし、「立ち上がり・座る時の介助」「歩行の介助」「車椅子の操作方法」を2人組で介助する側・介助される側のそれぞれを体験して頂くことにしました。

参加者の方から、「自分もいずれ年老いて介護が必要になった時のために介助される側の感覚を味わうことができました」とおっしゃる方もおられました。そのほかに「座る時は振り返って椅子の位置を確認しないと不安でした」「初めて車椅子に乗ってみたけど、怖かったです」など、色々な意見を頂きました。私のたどたどしい説明に参加者の皆様はとても熱心に耳を傾けて下さいました。

その後の振り返りで疑似体験について話し合いました。「よくあるのがアイマスクをして手を引いてもらい、不自由さを体感することで、一人では何もできない不安・不便を経験できますが、不自由さは一瞬です。その結果、視力障害の方を気の毒な人と同情しがちです。一生障害と共に生活する方への真の洞察力を私達は持ち得るだろうか」と考えました。障害を持った方は、不便というよりも障害を覚悟を持って受け入れ、生活に喜び、生きがいを見つけておられるその一生懸命さは、私達の生ぬるさとは比べられないと思います。

私は今回の研修では人前に立って話をすることの難しさを実感しましたが、先輩職員にアドバイスを頂き試行錯誤を重ねながら構想を練っていくことがとても勉強になり貴重な経験ができたと思います。日常の介護で利用者さんと目を合わせ丁寧に関わると心の交流ができる時があり大きな学び喜びになっています。



浄土真宗本願寺派 宣能寺 岩本 融乗 住職

今日は5月から始まる新元号が発表されました。桜がちらほら咲き始め、新年度の記念すべき日となりました。お話しして頂くのはせいりょう園の近くにあります宣能寺のご住職 岩本 融乗様です。最初に『なまんだぶつ 煩惱にまなこさへられて 撰取の光明みざれども 大悲ものうきことなく 常に吾身をてらすなり』と称えられ、ご講話が始まりました。

「私は浄土真宗本願寺派の僧侶です。平成から代わる新元号の発表の日にお話しさせて頂くのは、緊張もありますが、何か新鮮な気持ちで来させて頂きました。でも自分自身で勉強になるなあとと思っています。

冒頭で称えた『煩惱にまなこさへられて・・・』は『高僧和讃』の中にあります。『むさぼり、怒り、愚痴、自己中心等の煩惱に心奪われて、見えずといえども仏様の必ず救うとの大悲の御心は、絶えることなく恒に我が身を照らして下さっている』という意味です。釈尊は『人生は苦なり』と申されました。『人生は喜びもあり苦しみもあり、それが生きる事だ』と。

僕の父は、非常に優しくて怒られた記憶がほとんどありません。でもそんな父がすごく怒った事があって、それは僕が高校生の時、親に反抗してすごく心配させた時期がありました。見かねた父は涙を浮かべ、僕を殴った事がありました。でもそれは僕の事を心配するがゆえにとった行動であって、今になって思えば悲しくなる程、父の愛情が伝わってきました。

そんな父が、僕の大学生活あと1年という時に病が分かり、もって2、3ヶ月と宣告されました。その時のショックというか悲しみは今でも忘れる事なく、僕の心に刻まれています。宣告されたのが3月、夏休みまで持たないと思っていたけど、『お前、学校だけは卒業しろよ！お父ちゃん、がんばるから』と言ってくれました。それからというのは、僕は学校へ行きながら、出来るだけ家にも帰って来てお参りを手伝っていました。父は苦しい体をおして、3ヶ月過ぎても自転車に乗り、お参りを続けていました。

その年の秋、10月の末頃の夜に僕が車で家に帰って来た時でした。土砂降りでも寒い夜でした。家に入ろうとした時、街灯の下に自転車に手を掛け、袈裟姿でびしょ濡れになって、お参りから帰って来たばかりの父がいました。法衣を着ているというより、法衣をかけているように見えた父が、苦しい顔も見せず、僕の顔を見て『あー帰って来てくれたか』と笑顔で迎えてくれた父の姿が、可哀想と言うか、悲しすぎて涙が止まらなかったのを覚えています。

年は明け、春に僕が卒業するまで、父はがんばってくれ、4月になって急に弱っていききました。そして最期の言葉が『お父ちゃん、疲れた。先に行っとくぞー、お母ちゃん、頼むぞ！』でした。もう命も短いと知りながら、一人自転車に乗り、お参りを続け、僕の事、家族の事を心配しながら、命尽きるまで生きた父。どれほど苦しかったか、それを思うと悲しくて悲しくて堪らなかった。けれど、そんな父の姿が僕の心に焼き付いています。いや！生き続けてくれています。だから僕は辛い時でも、家族やご縁のある人達の為にもがんばっていきたいと思います。

ある本にこんな話がありました。ある村に見知らぬお坊さんがやって来て、村の東側

と西側にお地蔵さんを1体ずつ建てていきました。東のお地蔵様は願い事を叶えてくれるが、西のお地蔵様はただ見守ってくれているだけです。村の人達は皆、欲望のままに東のお地蔵様だけにお参りし続けました。するといつの間にやら、皆お金持ちになっていた。そこで満足出来ればいいのですが、欲は大きくなるばかりで人の事はどうでもよくなり、自分さえ良ければと、皆が競い合いました。そこに再びお坊さんが現れ、『これからは西のお地蔵様にお参りするように！！』と言い残して去っていかれました。村人は自分の姿に気づき、皆そろって西のお地蔵様にお参りするようになりまし。優雅な生活は消え去り、元通りに戻りました。が、村人達は優しさを取り戻し、皆で助け合うようになりまし。人は決して独りでは生きていけない、限りある人生の中で忘れてはならない事！それは、人と人が助け合っていく事こそが、本当に忘れてはならない大切な事であったと、村人達は気付きました。それからというものは、ただただ、見守って下さっているお地蔵様に手を合わせ、感謝申し上げ、力合わせて生きていったという話です。

『仏壇を守らな！』とか『仏さんを守らな！』という声を時々聞きますが、正確には僕らは等しく仏様方に守られた中にあるんだ、仏様方の救わずにはおられないとのお心に包まれた中での、日暮らし人生なんだと、そう思うと何だか安心というか嬉しくなるんです。日々手を合わせ、今日一日を、明日一日を大切に後悔のない人生を生きてゆきたいと思っています。合掌」と、締めくくられて、お話が終わりました。仏事の途中にお越し頂き、「話の機会を与えてもらえるのは有難い事です」と言って下さり、感謝しております。また、お父様へのお気持ち等をお聞きして胸にせまる思いで聞かせて頂きました。

サービス付き高齢者向け住宅相談員：岡村 照代
(介護支援専門員)

平成 30 年度第 6 回運営推進会議報告

せいりょう園では平成 21 年度から介護保険制度に基づき運営推進会議を設置しています。ご家族や地域の住人、関係機関の方々に参加していただき、会議での報告、議論を重ねています。

日 時：平成 31 年 3 月 7 日（木）14:00~16:00

場 所：せいりょう園リバティかこがわ 2 階

事業所：地域密着型老人介護福祉施設・定期巡回随時対応型訪問介護看護
グループホーム・グループホームまどか

参加者：地域代表 3 名 行政担当 0 名 医療担当 1 名
家族代表 2 名 職員 11 名 計 17 名

内 容：行事報告 ひやりはっと事故報告
実習生受け入れ報告 介護について語ろう会報告
ターミナル報告 身体拘束適正化委員会報告
地域密着型定期巡回随時対応型訪問介護看護自己評価・外部評価
意見交換（グループハウスについて等）



ボランティアさん募集！

せいりょう園では、個々の利用者の方に多様な生活場면을創り、多彩な広がりある生活を実現していただくために、多くのボランティアの方々にご協力いただき、様々な活動をしています。地域の一員として暮らす利用者の方と一緒にサークル活動にご参加いただける方や生活を彩る活動をして下さる方を募集しています。

① のびのびルーム

月曜日～木曜日に『のびのびルーム』を開催しています。曜日ごとに活動内容は変わりますが、ボランティアの方には活動の準備や参加者の確認・記録・お茶の準備などをお願いします。自彊術体操は、佐藤鈴子奥伝師範の指導のもと利用者の方と一緒に行っていただきます。

★日時：月曜日～木曜日 13時～14時30分

★内容：月・木曜日-自彊術体操、火曜日-映画会、水曜日-カラオケ

② 書道教室

書道の先生が指導して下さいますので、準備・後片付けをお願いします。活動中は利用者の方と一緒に練習していただけます。

★日時：第1・第3火曜日 12時30分～13時30分

③ 街角コンサート

リバティかこがわ1階エントランスでピアノを弾いて下さる方を募集しています。日時のご都合に合わせてますのでお問い合わせ下さい。小学生や中学生、高校生の参加も大歓迎です。

④ 手芸教室

手芸教室で活動して下さる方を募集しています。内容や材料なども一緒に考えて下さる方をお待ちしています。

★日時：毎週金曜日 13時～14時

⑤ 園芸

せいりょう園敷地内にある草花のお世話をして下さい方を募集しています。日時のご都合に合わせてますのでお問い合わせ下さい。



[問合せ]せいりょう園 TEL (079) 421-7156

※見学もできますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

【お知らせ】

① 介護について語ろう会 5/24 (金) 14時～『認知症を考える (第1回)』

② 男性の料理教室 5/3・5/10・5/17のテーマ『和食の献立』
5/24『嚥下とトロミについて』 13時30分～15時

[問合せ] せいりょう園 TEL (079) 421-7156



【せいりょう園空き情報 2019年4月17日現在】

○サービス付き高齢者向け住宅リバティかこがわ：6室

○サービス付き高齢者向け住宅自愛の家さくら：7室

○グループホーム：空きなし ○グループホームまどか：空きなし

○ケアハウス：空きなし

[問合せ] せいりょう園 TEL(079)421-7156/(079)424-3433

